

加西市の友好都市プルマン市長の同市訪問、深まる交流 ～兵庫県ワシントン州事務所からの報告～

加西市とワシントン州プルマン市は、平成元年に姉妹都市提携を締結して以来、活発な交流を行っていましたが、近年その交流が中断。昨年2月に加西市の西村市長をはじめとする4名の訪問団がプルマン市を訪問したのをきっかけに両市の交流が再開しました。

今回、プルマン市のジョンソン市長は3泊4日の日程で加西市を訪問。これは西村市長が加西市玉丘史跡公園で開催の「加西市播磨国風土記1300年祭」にご招待したことで実現しました。

5月2日、ジョンソン市長を西村市長と親善訪問団（本年3月にプルマン市を訪問した中高生）が市役所前で出迎え、歓迎セレモニーでは、中高生がパワーポイントを使って、加西市や日本文化の紹介を英語で行いました。その後、ジョンソン市長は、市議会本会議場の見学、国宝三重塔がある法華山一乗寺の参拝、北条鉄道の乗車を体験されました。

5月4日の「加西市播磨国風土記1300年祭」では、狂言や能を鑑賞され、日本の伝統文化を存分に堪能されるとともに、高円宮妃久子殿下下歓迎晩餐会に出席、加西市での体験を満喫されました。

ジョンソン市長の離日の際には、西村市長から「プルマン市の子ども達をぜひ加西市へ派遣してください」と依頼。中高生訪問団の相互派遣の再開により両市の友好はさらに深まるでしょう。

ワシントン州事務所では、加西市とプルマン市の交流再開にあたり両市との調整や、親善訪問団への随行など支援を続けてきましたが、今後も継続した支援を実施したいと考えています。



親善訪問団の中高生が出迎え



西村市長、松本教育長、親善訪問団の皆さんと一緒に



狂言師野村萬齋氏監修の新作狂言「根日女」を鑑賞